

平成27年4月定例教育委員会 会議録

1. 日 時 平成27年4月28日(木) 開 会 午後 3時00分
閉 会 午後 5時50分

2. 会 場 茅野市役所 602会議室

| | | | | |
|---------|----------|-------|--------|-------|
| 3. 出席委員 | 教育委員長 | 吉田 一 | 同職務代理者 | 小平麻里子 |
| | 教育委員 | 小林 智 | 教育委員 | 小林 俊恵 |
| | 教育長 | 牛山 英彦 | | |
| 出席者 | 生涯学習部長 | 木川 亮一 | こども部長 | 牛山 洋治 |
| | 学校教育課長 | 平出 信次 | 文化財課長 | 守矢 昌文 |
| | スポーツ健康課長 | 鋤柄 敏 | 公民館長 | 矢島喜久雄 |
| | 幼児教育課長 | 牛山津人志 | 生涯学習課長 | 小島 吉彦 |
| | 教育総務係長 | 渡辺 雄一 | こども係長 | 原 功吉 |
| | 生涯学習係長 | 上原 平二 | | |
| | 教育総務主事 | 丸茂 直樹 | | |

4. 傍聴者 2名(詳細は別紙)

吉田委員長

ただ今から、4月定例教育委員会を開催します。

まず、前月の3月の会議録確認をします。何かありますか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

本件は承認されました。なお、会議録の署名は委員会終了後にお願いします。

それでは報告事項第1号、教育委員長報告についてお願いします。1日に辞令交付式と校長着任式がありました。着任式につきましては3年目になりますが義務教育学校と高等学校の違いについて驚いております。ここではきちんとした自覚を持っていただけるようにと教育長先生の方でしっかりと体制を組んでくださっており、ありがたいと思います。

保育園の入園式、東海大三高校の入学式、中学校、小学校の入学式がありました。小学校、中学校の入学式についても、なんとなく違和感みたいなものを持っていました。それは、高等学校では入学許可という形ですべての生徒の呼名がある訳です。小学校、中学校

は考えてみれば入るのが当然というところがあり、そうしたことがないです。その部分が大きく違うと感じました。その中で泉野小学校の入学式に出たわけですが、入学者を一人一人、校長先生が名前を呼び、しっかり頑張るようにと声かけをしました。これは大きな学校では時間的には無理なところではありますが、臨機応変にその学校にふさわしい入学式を作ってくれていたところに感謝をしています。16日以降はすべての小学校でスタートカリキュラム公開授業が行われました。私は宮川を途中から、湖東、豊平、永明小学校の様子を見させていただきました。それぞれの学校、それぞれの方針、それぞれの課題を持って取り組んでおられましたが、学校によっても違いがあり、スタートカリキュラムについて意識をしていた方とそうでない方では差があるということ、茅野市にいた人たちはそれに直接関わらなくても、大きく違いがあったということを聞いております。豊平の場合は、宮川に來られて昨年度スタートカリキュラムに関わっての授業をやったという方が、転任して1年生を持ったということでやはり違うな、という思いもしました。15日に県の教育委員会と市町村教委の連絡会がありました。市町村教委の代議員会ということで今年度の方針等についてお話がありました。22日は県の教育委員会、地方教育委員会の懇談会と県の主要事業説明会ということで、教育委員全員と学校教育委員から2人行ってもらいました。

その他については資料をご覧ください。

次に報告事項第2号、教育長報告をお願いします。

牛山教育長

2日に新任校長教頭研修会が行われました。今年度新たに管理職として着任なされた校長教頭先生を対象として、やらせていただきました。内容的なことは、茅野市がどのようなことに力を入れた教育をしているかを1時間30分かけてお話をさせていただきました。6日に小中学校の入学式がありました。2日に校長先生が一番命をかけていただくところは入学式と卒業式だよ、とそういう意味の言葉を伝えさせていただいたので、その意味がしっかりと式の中に出ていたと思いました。つまり職員にも、生徒たちにもその心が表現されていたように思いました。特に茅野市は読書を教育の基盤において教育していますと、読書のことを式辞の中で触れていただきたいとお申しましたが、どこの学校の校長先生方も読書に触れてくれたということでありがたく思っています。

4日に茅野高校の入学式がありました。高校生の入学式も厳粛な中という意味合いが伝わってくるいい入学式だと思っています。

15日の県教委と市町村教委連絡会に委員長さんと出席させていただきました。ここで県教委が、報告、助言して下さったことは、26年度末の管理職一般教員の人事というものが数的にどういう風な形で行われたかを詳しくお話して下さったこと、さらに年度初めであるので、学校現場ではこういうことに留意してください、指導してくださいという意味のことを私たちに話して下さいました。毎年県教委が各学校年1回、学校訪問をして下さっていますが、その学校訪問のやり方を27年度から変えるという内容でした。どのように変えるかという、26年度は朝8時30分から夕方4時30分まで諏訪担当の主幹指導主事の方がつぶさに学校を見てまわって、いろいろと助言なさってくださ

りますが、そういうどの学校も1日見るという学校訪問を27年度からは変えるということです。27年度も今までと同様の学校訪問をする学校と2種類作る、今までと同様の学校訪問をAタイプとすれば、1日に3校くらい訪問する学校訪問をBタイプとするということで2つのタイプで学校訪問をするというお話をいただきました。ですので学校訪問の仕方が変わるということでAタイプとBタイプの学校で準備の仕方を少し変えなければいけないと思っています。

20日に不登校対応検討委員会を開かせていただきました。これは教頭先生方にお集まりいただきました。茅野市は平成8年度頃からのデータしかありませんが、一時期不登校が非常に多い時がありました。この状況を何とか改善しなければならないということで、教育委員会事務局、学校現場も不登校者数を減らす努力をしてきて、年々少なくなってきております。多かった当初は、小学校と中学校を比べると、小学校の児童の方が不登校者数が多かったんですが、その後あるときから中学校が非常に多くなってきていて、不登校者数が逆転しました。逆転はしましたが、不登校者数は減っていきました。しかし平成26年度の不登校状況をみますと、中学校の方が小学校より圧倒的に不登校者数が多いということです。ですけれど、他都市と比べると非常に少ないという結果になっております。私が危惧していることは今まで減り続けてきていたにも関わらずまた少し増えたということが気になっています。何が要因で増えたのかを追求しなければと思っています。今のところはっきりとした原因、要因はわかりませんが、多分に、保護者の皆様方の考え方とか意識の変化、その変化の象徴的なことはわが子より自分のことを中心に物事を考えたり、行動する、そういう保護者が増えてきている。つまり親教育をどうしたらいいか、この問題と不登校問題が関係がありそうだと思います。義務教育なので、学校へ就学することはもちろん、毎日通って勉強するということは当然のことですので、その当然のことができにくくなってきているというこのことが非常に重要なことと思っています。20日に教頭先生方に集まっていたいただいたのは、自分の学校の不登校の問題に関しては教頭先生が総責任者になっていただきたいということです。事務局のほうで、こういう生徒が休んでいるがどういう状況か、を聞いた時にすぐに、答えられるように教頭先生には把握してほしいということです。ということをお願ひしてきましたが、近年、教頭先生から違う人に、たらい回しにしているというところがあったので、今年初めて不登校対応検討委員会というものを特別に開かせていただきました。

22日に県教委行政施策説明会がありました。27年度、県教委がどういうことに1番力を入れているかの重点施策の話が非常的に印象的に残っています。皆様の頭に留めておいていただきたいことは、学力向上、すべての子供の学びを保障するということです。その中身は、長野県教委におきましてもいじめ問題を県教委が気にしているということです。いじめ問題を軽んじていると必ずや滋賀県のようになりかねないという危機感を持っているということがひとつの理由。4、5年前から長野県教育委員会は特別支援教育の充実ということに力を入れています。これからの教育はどの子も同じに教育を受けられる環境を形成していくということが教育の基本ということ。もうひとつは不登校が多くなっている、親の在り方に陰りが出てきたということに関係があると思うのですが、子供によって困難な悩みを持っている児童、生徒が近年増えてきたということを県教委は言っています。

そういう意味でいじめ、特別支援教育、それから困難な悩みというような心の問題、あるいは道徳教育に関係がある問題です。ですからそういう意味のところへ力を入れていくということです。もうひとつは体力向上とスポーツの振興に力を入れていくという説明がありました。しかし矛盾点がありまして、中学校の部活動等は朝部活をやるなどか、体力向上と言っているのに重点施策に体力向上を挙げていることにギャップはないのかと思います。学力向上、すべての学びの保障、体力向上とスポーツ振興、この3つが長野県教育委員会が力を入れる重点施策だと聞いてきました。

23日に市読書教育研修会をやらせていただきましたが、26年度までは悉皆で受けて欲しいということでしたが、今年は本年度茅野市に新しくお見えになった先生方を対象にして、私の方から1つは、茅野市は教育の根幹に読書を置いてるという意味、もう1つは読書というものが毎日の授業実践の中でこういう風に重要に扱ってもらいたいという、その事例として永明小学校の実践を発表していただきました。3つめは茅野市の読書で力を入れていることは調べ学習です。調べ学習とは何か、どういう風にやったらいいかということ、の3つのことで研修会をやらせていただきました。その他、幼保小連携教育の中でスタートカリキュラムの公開授業をできるだけ見させていただきました。感想としましては幼保小の連携教育をやってよかったと、これほど保育園の子供たちが育まれ、その育まれた子供達が小学校に入学してからこれほど、学校教育に馴染んでやってくれるのかと驚き、感動しており、学ばさせていただいた内容がたくさんありました。各学校のスタートカリキュラムの授業公開はよかったかと、1番早いところは4月11日に金沢小学校で公開授業がありましたが、6日が入学式ですから、入学してから5日目なんですね。5日目にして2か月も学校生活を過ごしたかのような良い姿を私たちに見せてくれました。

その他については資料のとおりです。以上です。

吉田委員長

次に報告事項第3号、各課からの報告をお願いします。

生涯学習課長

生涯学習係ですが23日に午前10時から多留姫文学自然の里田植えまつりが多留姫文学自然の里神田であります。31日に小泉山の山開きがあります。教育長のご出席をお願いします。土砂災害水防の訓練があるため市長は欠席です。

文化芸術係ですが14日にセカンドブック手渡し会が豊平小学校で行われます。18日には青少年のための優良芸術鑑賞会講座が一週間行われます。

図書館と家庭教育センターについては資料の通りです。

公民館長

少し状況をお話させていただいて行事予定に入ります。市民の語らいの場を充実させるために喫煙所を撤去したところに自動販売機を移設しました。お茶を飲みながら新聞を読んだり語らったりする場になりました。自動販売機があった場所には掲示板を設置し、公民館との情報をわかりやすく掲示したいと考えています。

場を変えると気分が変わります。新鮮な気持ちで公民館を利用していただけるよう、これからも改善に向け取り組んでまいります。

さて、来月から公民館及び地区公民館の行事が始まります。7日にはバレーボールの審判講習会を行います。8日からは、玉川地区レディースバレーボールリーグ戦が始まります。17日には中大塩運動会が行われます。20日には高齢者大学の入学式があります。教育長の出席をお願いします。なお、別紙のような講座を開講しますので、委員の皆様にはご都合のよいときにお越しいただければ幸いです。25日には康耀堂美術館、尖石縄文考古館と共催で、小中高生を対象にした縄文アート講座を開きます。31日には泉野地区ソフトボール大会、ちの地区球技大会があります。後は、記載の通りです。

ホームページで公民館の様子を公開しています。市のホームページをお開きいただき「先週の公民館」をクリックしご覧ください。

その後は資料のとおりです。

文化財課長

文化財課ですが現在企画展「諏訪上社造営」、特別展「永明寺山古墳展」が開かれています。16日の守矢史料館周辺を歩く、が非常に好評で募集を始めております。24日に講演会という形で木造社殿の造り替え、諏訪上社の造営ということで中央から講師の方をお呼び勉強会をします。31日は市民研究員の博物館とのかかわりということで、講演会「博物館活動-市民のかかわり」という講演会を開きますので興味のある方はご参加ください。

縄文考古館の方ですが30日、31日に縄文教室「仮面の女神」を作ってみようがあります。縄文教室では通年で1つのテーマに絞っていこうということで、昨年国宝になりました仮面の女神をテーマに、細かいところから作ろうということです。

その後は資料のとおりです。

スポーツ健康課長

9日からひよこ教室、生涯スポーツ健康講座が始まっています。23日には第34回諏訪地方ジュニア陸上競技大会があります。教育長、教育委員の皆さんの出席をお願いいたします。その後は資料のとおりです。

こども課長

16日にジュニアリーダー養成コース開講式があります。20日に茅野市要保護児童対策地域協議会実務者会議があります。27、29、30日にチノチノ新入生歓迎ライブがあります。

その後は資料のとおりです。

吉田委員長

20日の茅野市要保護児童対策地域協議会実務者会議ではどのような方がお集まりになるのですか？

こども部長

要対協の全体会議はまた6月にあり、実務者なので実際に関わっているメンバー、今までやっていた相談員連絡会議を実務者会議という形で位置づけをしているものですので、要対協の方の実務者会議という名称で各サービスセンターですとか、それぞれ相談などに関わっている学校の先生などです。

吉田委員長

今年からこの名称に変わり、内容は変わりますか？

こども部長

問題ケースの進行管理を実務者会議の中で担っていくときちんと位置づけさせていただいたものですから、そのような形で月に1回ほど進行管理をしていくということになっております。

幼児教育課長

8日、25日に幼保小連携保育士研修があります。ご都合のつく日に教育長、教育委員の方々の出席をお願いします。19日に保育教会定期総会があります。教育長の出席をお願いします。

その他は資料のとおりです。

学校教育課長

12日に校長会があります。教育長のご出席をお願いします。13日に学校関係教職教育研修会があります。教育委員、教育長のご出席をお願いします。15日に茅野市PTA連合会総会があります。教育長、教育委員のご出席をお願いします。また15日から主幹指導主事の学校訪問があります。19日に中諏校長会があります。教育長のご出席をお願いします。20日に諏訪地方市町村教育委員会協議会総会があります。教育長、教育委員のご出席をお願いします。21日に22日までの一泊二日ということになりますが長野県都市教育長会議、全国都市教育長協議会総会が厚木市で行われます。教育長の出席をお願いします。25日にスタートカリキュラム報告会・研修会が行われます。28日に5月定例教育委員会が行われます。教育長、教育委員の出席をお願いします。

その他は資料のとおりです。

吉田委員長

次に報告事項第4号、教育委員会共催・後援についてお願いします。

生涯学習課長

13件の申請がありまして、要領に基づき審査して、許可しました。

スポーツ健康課長

16件の申請がありまして、要領に基づき審査して、許可しました。

吉田委員長

次に議案1、「茅野市教育の基本方針について」、教育長、学校教育課長から説明をお願いします。

教育長

議案第1号（資料説明）

学校教育課長

議案第1号（資料説明）

吉田委員長

今年はこの基本方針で進めていきたいということですね。

何か質問はありますか。

小平委員

こども部と生涯学習部の2部制で一体化して進めていくということですが、資料の中の施策を生涯学習部とこども部で分けたほうが考えやすいと思います。あと県の方の重要施策である、体力向上とすべての子供に学ぶ保障、いじめの対策のようなことについて施策として上げなくてもよいのかなと感じました。

教育長

こども部と生涯学習部を分けるというのは、小平委員さんはどのような意味で分けるといっているのでしょうか。

小平委員

前半にこども部の事について書かれていて、後半に生涯学習の大人の分野について書かれていたので、分けた方がすっきりすると思いました。

こども部長

ここに書かれているのは教育委員会全体のことが書かれており、あとのその他（1）で27年度の各部の経営方針と目標ということで、そこでこども部と生涯学習部で分けて経営方針で細施策が示され、それに対して主要事務事業を挙げさせていただいています。なのでここでは教育委員会全体での方針ということです。

吉田委員長

これは、基本的にはこれから出てくる、その他以降の基になるようなものというものでよろしいでしょうか。

学校教育課長

基本的には27年度に焦点を絞ったもので考えさせていただいたものです。これは主に生涯学習部、主にこども部というように分け方をして、どちらの方がふり幅が大きいのか、のように表現しておけば分かりやすいというのが小平委員さんの考え方だと思います、また後ほど考えさせていただきます。

こども部長

これから議会などで報告をしていきますが、その際、茅野市の基本方針ということで教育長から説明していただき、そのあと各部の部長達が自分のところの部の経営方針と目標について部の細かいところまで説明するという形になります。ですので一体的にして考えていけばいいのかなと思い、今までもそのような形でやってきていると思います。

学校教育課長

いじめや具体的な不登校だとかについては、資料の中のこどもを大事にする教育の実践の中などに入っています。

こども部長

いじめや不登校などにつきましては市民プランの細施策の中の確かな学力が修得され安心して通えるような学校づくりというものが部の中の経営方針について重点的な取り組みの中に入っていますのでその他（1）の方で説明していきます。

吉田委員長

また後ほど詳細については説明していただけるということを念頭に置いてご確認ください。

27年度という限定をつけるなら、今年何が大事かということを書いているわけですね。

他に何か質問等ございますか。

小林（智）委員

資料の施策が箇条書きのようになっているので、聞いていてとても分かりづらいため、施策に番号を付けたほうがわかりやすいと思います。

吉田委員長

こういう形で11項目見出しがあり、その下に小見出しついてくるということで考えていくと。

こども部長

議会などで教育長さんが説明することがあるので、番号をつけるようにします。

吉田委員長

資料の一番後の教育長先生が述べられたのは補足事項ということで、ここのメンバーの中でこのことを確認して頑張らしようという理解でよろしいですね。

教育長

世の中は教育関係者に対してのバッシングが非常に強いので、そういうことに対して茅野市教育委員会は当然考えていますよという、PRに使いたいわけです。

こども部長

来月、各部の経営方針のプレゼンがありますので、教育長の方からそこでこの話は入れてもらいます。

吉田委員長

それまでの部分とは性格が違う文であるということを押さえながら事務局も教育委員も心に刻んでいきたいと思います。

他に意見等がありますか。

小平委員

親教育への取り組みがこれからとても大事になり重要視されると思うので、親教育の扱いの仕方を大事にし、親教育の扱いは資料でも扱われておりますが、そこを重視して、いろいろなところで、こども部だけでなく生涯学習部などでも扱って欲しいと感じました。

吉田委員長

親教育というものを全面に出していくというのは難しいですね。

小林（智）

話をする機会を設けるというのは必要だと思いますが、文書であちこちに書くというのは難しいかなと思います。

吉田委員長

親を教育するという言い方をするよりもこどもが育つのを親がどう見守るかというところをサポートするという言い方になってくると思います。

生涯学習部長

親教育の取り組みですから、様々な取り組みがあると考えており、生涯学習の中でも取り組み、教育の中でも取り組んでいかなければと考えております。

こども部長

第二次どんぐりプランの後期計画の中で新たな施策で親教育を入れさせてもらっています。一日保育士体験だとかを学校教育の中にいれさせていただいており、そちらの方を見ていただければと思います。

吉田委員長

次に議案２、「茅野市社会教育委員会等の委員委嘱について」、生涯学習部長から説明をお願いします。

生涯学習課長

議案第２号（１）（資料説明）

吉田委員長

継続の方達はそれぞれにふさわしい理由を持っているということでお願いをするということで、新規の方たちについては充て職であるということですね。たとえば中学校の校長先生からお一人、二つの高校の校長先生からお一人、ＰＴＡ連合会の会長さんからお一人ということ形でお願いしているということですね。

ご承認いただけますか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

続いて公民館館長をお願いします。

公民館長

議案第２号（２）（資料説明）

吉田委員長

ご承認いただけますか。

全委員

異議なし

文化財課長

議案第２号（３）（４）（資料説明）

吉田委員長

ご承認いただけますか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

次に議案３、「県教育委員会及び市町村教育委員会相互の連絡調整について」教育長から説明をお願いします。

教育長

議案第３号（資料説明）

吉田委員長

資料の了解事項のところで内申案を得るというのはどこが得るのですか。

教育長

県教委が内申案を作成し、市町村委員会の内申案を得るわけです。

吉田委員長

我々は内申をするわけであり、県教委が内申を得るわけではないのですか？

教育長

どちらの意味でも取れるようになっていきますね。

教育長

資料にアンダーラインが引いてあるところが去年と違うところです。覚書の（４）のイに及び長野県教育委員会が付け加えられています。

吉田委員長

要するに、これで長野県教委の人事に対する、指導的な力がさらに強化されていくという傾向が見えることですね。

教育長

何故、ワーキンググループが従来の考え方から、本拠地とか近いところなどの考え方を入ってきたかという、教員の不祥事が多すぎて、本拠地や家族から遠く離れているからなのではないか、とワーキンググループの方が昔から言ってきました。なので、こういうような考え方が出てきたわけです。教員不祥事対策にも使おうと考えているわけです。

吉田委員長

県から示された原案で連絡調整についての了解事項を認めてもよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

検討事項は、今回ありません。

次にその他 1、「教育委員会各部の経営方針と目標（平成 27 年度）について」、各部から説明をお願いします。

生涯学習部長

その他 1（資料説明）

吉田委員長

続いてこども部をお願いします。

こども部長

その他 1（資料説明）

吉田委員長

何か質問等がございますか？

小林(智)委員

資料 6 のこども部の確かな学力が修得され、安心して教育が受けられる学校づくりの主要事務事業名に、小中連携・一貫教育事業と書いてありますが、行政側で連携を使わないようにして一貫にしていますが、行政側として連携・一貫にしているのは何か意味があるのですか。

教育長

意味としては連携の意味合いのことをしています。しかし本年度末までには連携を使わずに一貫の方へ移行したいと思っていますが、今は移行中ということで、臨機応変に使っています。

吉田委員長

先ほどの基本方針 11 項目ありますが、生涯学習部、こども部のところの経営方針での用語などの整合性を取った方がよいのではないかと思います。

こども部長

市民プランの中の主要事務事業を使っているのと、予算の事業名になっておりそこと合わせなければならないということで変えられないということです。

吉田委員長

それを踏まえて、基本方針の統一性を持つものとしてやるには、基本方針にいくらか手直しをしなければならないということですね。

他に質問等ありますか。無いようですので、その他1を終了します。

次にその他2、「平成26年度相談状況について」、こども課の方からお願いします。

こども課長

その他2（資料説明）

吉田委員長

相談件数のところですが、CHUKOらんどチノチノなどの今年からカウントに加えたものを除いてみると増減はどのようになっていますか。

こども課長

79件の増加ですね。

吉田委員長

79件増加というと882件ですね。ありがとうございました。

その他質問等ありますか。無いようですので、その他2を終了します。

次にその他3、「平成27年度主幹指導主事学校訪問日程について」学校教育課から説明をお願いします。

学校教育課長

15日から始まりますので各教育委員さんがどの学校を担当するか調整を後ほどお願いいたします。

吉田委員長

それでは後ほど調整をいたします。

次にその他4、「セカンドブックの手渡しについて」生涯学習部から説明をお願いします。

生涯学習課長

その他3（資料説明）

吉田委員長

永明、宮川、湖東に理事者、教育委員、部課長がいないということですね。

生涯学習部長

他のところでもいいですが、3つの小学校にご都合を見ていただいて行っていただけるようお願いいたします。

吉田委員長

それでは後で決めたいと思います。

次にその他 5、「縄文科の状況について」学校教育課から説明をお願いします。

教育長

実際に見たり聞いたりしていると思いますので教育委員さん方からご自由に意見、ご感想を述べていただければありがたいです。

吉田委員長

具体的な活動とか、皆の共通理解にしておきたいところとか、周りからの反応とか何かございますか。

小林(俊)委員

泉野小学校の昨年度の 5 年生のときに、縄文科に合わせて自分たちの先生と生徒と一緒に劇の発表を市民館で行われたんですけども、その時の舞台の内容はこどもたち一人一人が縄文時代の人々の暮らしとか考えを理解、勉強をして、今の自分たちの生活とか考えを全部それに当てはめて、子供たちが本当に考えて発表するという素晴らしい発表がありまして、感動をしているところなんですけども、子供たちがそこまで考えられることがわかりました。今の自分たちと縄文の人たちの気持ちまでも考え、自分たちの今というものに取り込もうとしている、子供たちがそこまで考えられるということは縄文科というものが素晴らしい勉強の場ということを感じました。これからもいろんな学校の子供たちにも続けていって今の殺伐とした社会に出ていったときに緩和できるような心持の子供たちが育っていつてくれるのではないのかなと思います。

小平委員

同じく泉野小学校の 5 年生の授業を参観させていただきましたが、あの子たちが泉野地域の素晴らしさに気づいて、その地域で育った、地域を誇りに思って、その土地の方々に感謝して、それをまた子孫に伝えていくという気持ちが育っている姿を見させていただいたときに郷土愛などが縄文科を手段として育っていき、彼らが大人になった時に地元に帰ってきてくれるのかなと思いました。

小林(智)

縄文科の授業をすることによって良さというのは、泉野小学校のようなことだと思います。私は別の視点でいくと、縄文科が去年から始まり、今年で 2 年目になりますが小学校、中学校、同時に始めたということで縄文科を経験した小学生が中学生になりますが、中学校でやっている縄文科というのは小学校と同じようなことをしている面がありまして、入った時に同じようなことをしているのも困ると思います。違う角度から縄文について考えるということを今から中学校の方で体制を作っていかなければいけない授業になってしまうと感じます。

吉田委員長

縄文科といって、要は生きる力をどうやって育んでいくのかということに集約されるものだという意識で各学校が取り組んでくださると思います。ただ一部に縄文科というような新しいものを入れて、というような言い方をする方もいますが、学校自体のとらえ方としましては縄文科という新しいもの、新しい視点の上に新しいものを付け加えてそれだけに余計にというように考えてくださらない、これが学校の本来の教育の中に位置づけるべきものだという意識を持ってくださるというように考えておられるようで、そこは安心しています。縄文というものに直接関わる、なにかがあるところができ、なにかがないところではできない、なんて形でないようにしっかりと縄文の精神を受け止めようとして、生き方の問題として考えてくださっていてとてもありがたいと思っております。すべての事が子供たちの生きる力をしっかりと育んでいくところに集約されていくんだ、という思いをもう一度持ちながら縄文科のことを見ていかなければいけないなと思っております。縄文プロジェクトのところでも「識る部会」というようなところでガイドブックという話があります、その時に子供たち、どのへんをターゲットにするのかという話も出ました、そうしたことも含めて茅野市の子供たちが縄文という言葉によって想起するイメージ、関わってくる知識というものがどんなものであって欲しいのか考えなければと思います。

教育長

幼保小のスタートカリキュラムと同じで縄文科という科を立ちあげてやったことはとてもよかったというのが率直な感想です。準備期間も含めれば3年ぐらいかかりますが4年目でここまで成果を出せるとは予想をしていなかった。子供たちの学習内容として適切な教材になったんだな、と強く思います。今の言わせてもらったことと深く関係があるんですが、縄文科というのは独立させてやったわけではなくて、既存の総合の時間の10時間分を使ってやっていただいたものですが、総合的な時間の中の縄文科ということでやっていただきましたがこれもよかったなと感じました。単なる縄文に関わる実際の授業でやっていただけではなくて、国語の授業と縄文科の内容を重ね合わせて、あるいは芸術の授業と、あるいは社会科の授業というように他の科目と結び付けて学習して下さったというのが非常にありがたかったということです。縄文科の学習は素晴らしかったと、違う言い方をすれば茅野市の各学校がやってくださっている総合の時間は非常に充実しているという言い方をしてもいいと思います。中学校の方がいまいちだったかと思いますが、小学生は縄文科の学習というのが嫌というような雰囲気はなかった、逆に楽しい、もっとやりたいというような雰囲気がとても濃厚で、子供たちのやる気にうまくマッチできたということです。泉野の縄文物語も素晴らしかったですし、その他にも素晴らしいことはたくさんありましたが、1番感心したことは、湖東小学校の6年生が縄文アートという単元名で縄文人の心、生き方というものを、レプリカという形と、その色で縄文人の心や生き方を表せばどのような色や形になるかという、こういう学習を最後にまとめでやってくれたということに非常に私は驚いています。縄文人の心の内を本当にこういう風に、見抜けている、感じ取れているから、こういう素晴らしい縄文アートができたんだなと思って、私は良い縄文学習ができた、これがまさに茅野市のこどもたちの学力向上に深く結びついた結果

になったのではないのかと思います。

吉田委員長

先ほどの小林(智)委員のおっしゃった、中学がやってきたものを受け入れるときにどうするかという、その接続を小中連携というところで一緒に一つの課題として考えていかなければならないことかもしれないという事ですね。そういう意味で新たな課題も見えてくる事業であるとおもいますので、現場の先生方にもそれぞれにご苦心していただきたいと思っているところであります。

吉田委員長

次にその他 6、「幼保小連携教育について」、こども課の方からお願いします。

教育長

これについても各委員さん方からご意見をお願いします。

小林(智)

3校見に行かせていただきましたが、保育園の方で小学校に上がる準備をしてきた成果というのが本当に小学校の子供たちの姿勢にとってみられると思います。それを見ながら各学校の先生たちにいかに興味を持たせて飽きさせずにやってるなという風に感じました。学校によっては1クラスしかないところもありますし、数の多い学校もありますが、少ないところは少ないなりに、多いところは多いなりにいろいろな工夫をしてやっており、見ている中でも課題などが出てきており、そういった面を来年度以降につなげるような形でしていってくださるといいのかなと思い、すごい良い状態だと思いました。

小林(俊)

少ない人数の保育園とか小学校の場合だと思いますが、保育園全体だと思いますが、一人一人の子供さんの性格だとか、友達との関係だとかを把握していて、子供さんを本当によく見ていて、それを保育園の先生方がやることで1年に上がった時に、子供たち一人一人が自分たちの持っているもの、考え方などをのびのび発揮しているところを見させていただきました。それには保育園の園長先生だったりとか保母さんが生徒をすごく見ているということをお聞きしたので、時間を惜しまず、見ているという事でそこが素晴らしいと思いました。

小平委員

宮川小学校のみしか見られませんでした。去年の泉野小の研究授業でも感じたことですが、入学してから1週間ぐらいであそこまで児童がのびのびしながらも、集中をもって授業ができること自体が幼保小の連携の成果かなと思いました。今年も宮川小で学年全体で指導のポイントだけは統一しようということで、おさえるところはおさえて、それぞれ子供たち一人一人の良さは認めて、おかしいところは抑えつけるのではなく、あたたかい

感じで指摘されていくという、メリハリのある授業が組まれているということが幼保小の連携で重要なところで、成果が上がるところかなと思いました。

吉田委員長

私は最初、宮川を少し見させていただいて、その後いくつかの学校に顔を出させていたんですが、正直言って小学校に入ってすぐの子供はどのような形が普通なのかがあまり分からない、でも今年行ってみて他の学年の子供たちとあまり違ってないぐらいに、子供たちがきちんとやっているし、一生懸命もやっているし、多少リラックスもしているということで、これは保育園の中で学校ってこういうところになるというような準備をしてきたおかげなのかなと思いました。そういう意味でスタートカリキュラムという形で考えていったのは、大きな成果があったんだなと思いました。ただこれは学校によって違いますし、状況によっては、私が行った湖東小学校では午後だったので、さすがに子供たちも、いくら疲れているかなとは思いましたが、1年生としては頑張っていました。2クラスありましたが学年でどのような事をしようと打ち合わせていたことで、同じような授業の展開はしますが、先生一人一人の個性が表れており、それぞれの良さがありましたが、やはり問題点もあり、学年の中で話し合ってくれば良いなとは思いましたが、単級の学校はどうすればいいのかなという心配もありました。金沢小学校の校長先生が担任が1人で相談する相手がない状態と話しておられるのを聞きました。他の職員がバックアップすれば済みますが、他の市から来てすぐに1年生の担任になった時に、ある程度の流れができていて、これを見ていけば少しはなんとかなるというのが一方で必要なかなとも思いました。幼保小の連携というのは前から動きはあったんですけど、短期間の間に成果を上げています。やはり小学校、保育園の先生方のご尽力のおかげだと感謝しております。

教育長

幼保小の連携教育をやってよかったと思います。永明小学校を含めて7つの学校に行かせてもらいましたが、この7つの学校に共通することがあります。小学校に上がった1年生に対して、いかに集中力というものを大事にした学校生活を過ごさせるかということが最も重要だと、教育における精神、成功するかしないかは、集中力が漂っているか、いなかで、教育の成否が決められるというくらい集中力は重要だということを幼保小連携教育の実際を見て強く感じました。極端なことを言えば、入学して1週目で集中力という姿勢をどれだけ身に付けさせるかということが、小学1年生の教育が1年間成功するかしないかの成否を決めるくらい、集中力というのは教育現場においては重要だということを勉強させていただきました。4月の第1週や第2週ぐらいまではどうしても学校教育というと、入ってすぐに知的学習というものに傾いていきがちですが、知的学習は後でもいい、4月の第1週、第2週までは姿勢づくりが大切だと思いました。もう1つは幼保小連携教育では何を目標しているか、このことを子供に直接かわってくださる1年の担任の先生方に受け止めていただけるか、受け止めている先生と受け止めていない先生とではこんなにも違いが出るのかと感じました。課題は幼保小連携教育の真の狙いは何かという事を教師も保育士さん方も深くますます理解していくことが課題だと感じました。

吉田委員長

スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムだけでなく職員の細かな連携があったというところ、そうしたものがさらに進んでいってくれることを含めながら、これが実質のあるものに進んでいってくれることを期待したいと思います。

吉田委員長

次回定例教育委員会ですが、5月28日木曜日午前9時から、事前を午前8時30分から開催したいと思います。よろしいですか。

全委員

異議なし。

吉田委員長

ご異議ないようですので、そのようにいたします。

以上で4月定例教育委員会を終了します。

茅野市教育委員会会議規則第19条第2項の規定によりここに署名する。

平成27年4月28日

茅野市教育委員会 委 員 長

職務代理者

委 員

委 員

教 育 長

こども部長